

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

12

マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 43 ギアボックスを組み立てる⑥

今号は、まずギアボックスにギアボックス(下)を装着する。次にクォーターパネル(左)、リアサスアーム(左上)、リアブレーキダクト(左)、ドライブシャフト、左のリアブレーキ、トーリンク(左)を取り付け、ギアボックスの左側面を完成に近づける。

今号のパーツ

- ① エンジンオイルタンク(上) ダイキャスト製 ② エンジンオイルタンク(下) ダイキャスト製



- ③ ギアボックス(下)



- ④ ドライブシャフト×2 ダイキャスト製



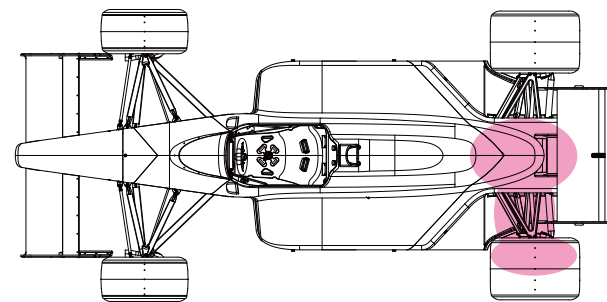
- ⑤ ビスC (1.4×6F-M SiL)×3
 ⑥ ビスJ (1.4×6P-M BK)×3
 ⑦ ビスK (1.4×10P-M SiL)×3
 ⑧ ビスM (1.4×4P-M SiL)×3
 ⑨ ワッシャーA (1.5×3.0×0.3 BK)×3
※ビスとワッシャーは予備1本を含む。

※③はPA(ナイロン)製

ギアボックスの底部は、車体の下側にあたり、さらにアンダーパネルが取り付けられるため、通常ではその形状を確認することは非常に難しい。本モデルは、今回のモデル化にあたり、マクラーレン社の協力を得て、ギアボックスの底部まで取材することが可能だったため、そのディテールを出来る限り再現している。

◀MP4/4のギアボックスの底部。

In Focus



今号で使用する道具

- ・プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・瞬間接着剤 ・つまようじ

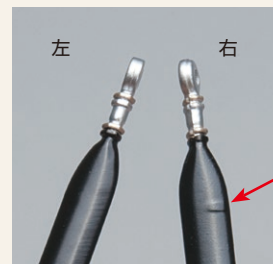
用意するもの

- ・リアブレーキダクト(左) ※33号で提供
- ・左のリアブレーキ ※33号で組み立て
- ・リアサスアーム(左上) ※41号で提供
- ・クォーターパネル(左) ※41号で提供
- ・トーリンク(左) ※41号で提供
- ・ギアボックス ※42号で組み立て
- ・ビスG (2.0×6P-TP BK)×2 ※41号で提供
- ・ビスP (1.4×6P-M SiL)×1 ※41号で提供

ポイント

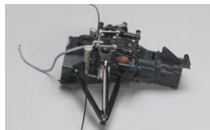
トーリンクの左右を確認する

●トーリンクの左右は見分けにくいですが、42号で提供されたトーリンク(右)にのみ、赤矢印で示した部分にマーキングがある。今号ではマーキングのない41号提供のトーリンク(左)を使用する。

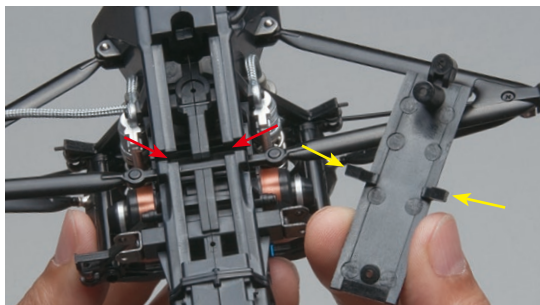


1 ギアボックスにギアボックス(下)を装着する

- 42号で組み立てたギアボックスを用意する。

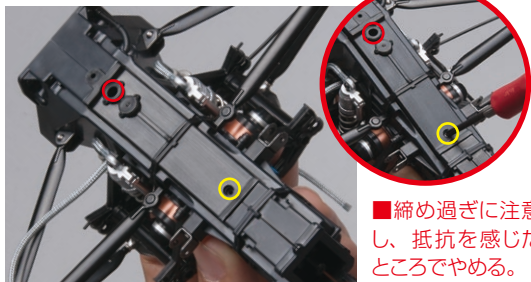


- ギアボックス底面の赤矢印で示した凹みに、⑨ギアボックス(下)の黄色い矢印で示した突起を合わせて、はめ込む。



- すき間がないよう、しっかりはめる。

- ギアボックス(下)の赤丸と黄色い丸で示したビス穴2箇所に、それぞれ⑩ビスJを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- 締め過ぎに注意し、抵抗を感じたところでやめる。

- ギアボックスにギアボックス(下)が装着された。

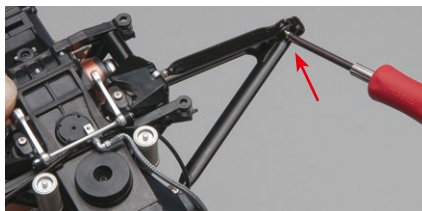


2 ギアボックスにクォーターパネル(左)とリアサスアーム(左上)を取り付ける

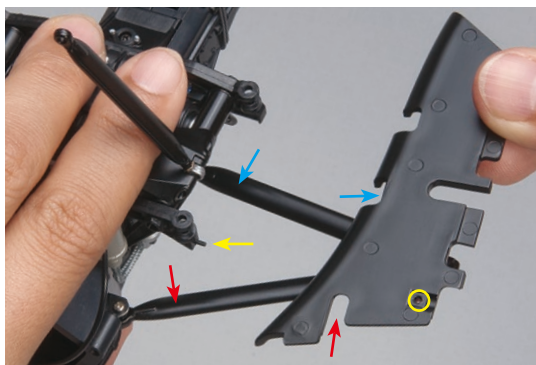
- 41号で提供されたクォーターパネル(左)、リアサスアーム(左上)、ビスG×2を用意する。



- ギアボックス左側にあるリアサスアーム(下)の、プッシュロッドの先端を固定している赤矢印で示したビスMをプラスドライバー(00番)で外す。



- プッシュロッドを上にあげて、クォーターパネル(左)の赤矢印で示した凹み、青矢印で示した凹み、黄色い丸で示した穴と、ギアボックス左側の赤矢印と青矢印で示した部分、黄色い矢印で示した突起をそれぞれ同色で組み合わせるので確認する。



- リアサスペンションプレート(前)の黄色い矢印で示した突起は、破損しやすいので注意する。

- 赤矢印で示した部分からはめ、次に青矢印で示した部分、最後に黄色の部分をはめる。



- 先ほど外したプッシュロッドをリアサスアーム(下)に戻し、ビスMを差し、プラスドライバー(00番)で締める。

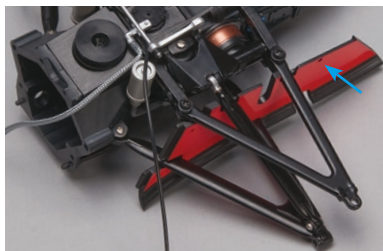


- リアサスアーム(左上)の青丸と黄色い丸で示したビス穴を、リアサスペンションプレート(前)(後)の同色の丸で示したビス穴を合わせ、それぞれビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



- ビスの頭がパーツに接したところで締めるのをやめる。

- ギアボックスにクォーターパネル(左)とリアサアーム(左上)が取り付けられた。



■現時点ではクォーターパネルに遊びがあるが、後の号で青矢印で示した穴を使用して固定される。

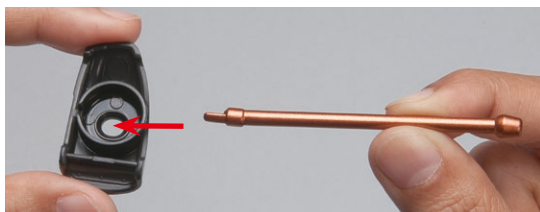
3

ギアボックスにリアブレーキダクト(左)とドライブシャフトを取り付ける

- 33号で提供されたリアブレーキダクト(左)を用意する。



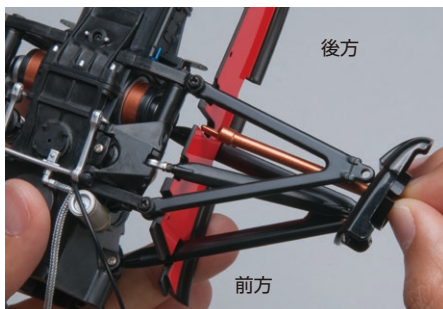
- リアブレーキダクト(左)の穴に、写真のような向きで④ドライブシャフトを差し込む。



- 青枠で示したドライブシャフトの先端の全体に、瞬間接着剤をつまようじの先で塗る。



- 写真のようにドライブシャフトの平らな面を車体後方に向け、リアブレーキダクト(左)の開いた側を車体前方にして持つ。



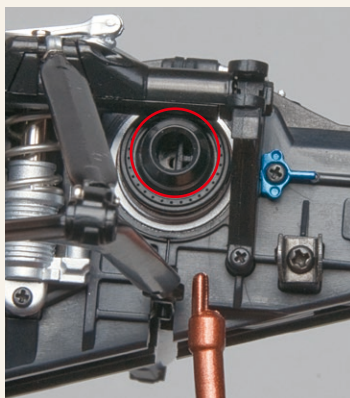
- ギアボックスの左側面にあるCVジョイントの穴に、ドライブシャフトを奥まで差し込み、1分ほど押さえる。



ポイント

ドライブシャフトの取り付けについて

- 実際の取り付けの際にはクォーターパネルが取り付けられているので見えないが、CVジョイントの赤丸で示した凹みの内側には仕切りがある。そのため、ドライブシャフト取り付けの際には、平らな面を車体後方に向けて差し込む。



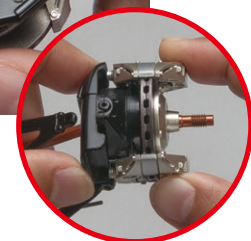
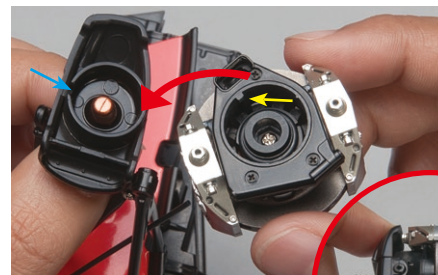
4

ギアボックスに左のリアブレーキを取り付ける

- 33号で組み立てた左のリアブレーキを用意する。

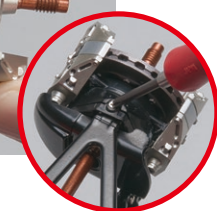
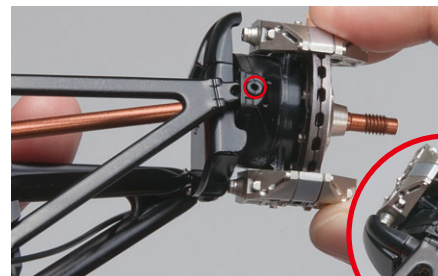


- リアブレーキダクト(左)の青矢印で示した切り欠きが車体の上側に来るように持ち、左のリアブレーキの黄色い矢印で示した突起を組み合わせる。

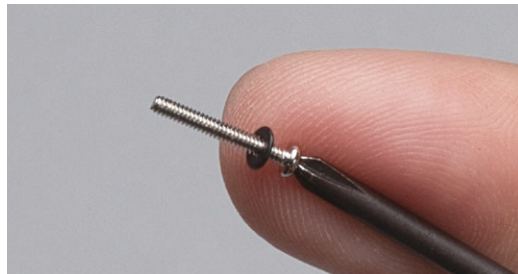


■左のリアブレーキをリアブレーキダクト(左)に近づけてはめ込むとよい。

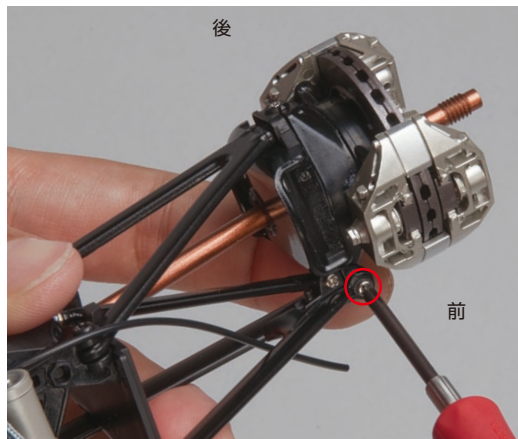
- リアサアーム(左上)の先を左のリアブレーキの赤丸で示したビス穴の下にある凹みに差し込み、それぞれのビス穴を重ねて⑤ビスCを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- 7ビスKに9ワッシャー Aを通す。



- リアサスアーム(下)の先端にある赤丸で示したビス穴に、左のリアブレーキの下側前方にあるビス穴を合わせ、ワッシャー Aを通したビスKを差し、プラスドライバー (00番)で締める。



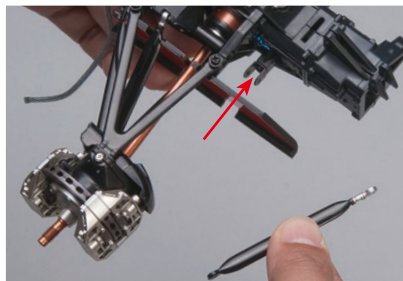
5 ギアボックスにトーリンク(左)を取り付ける

- 41号で提供されたトーリンク(左)とビスPを用意する。

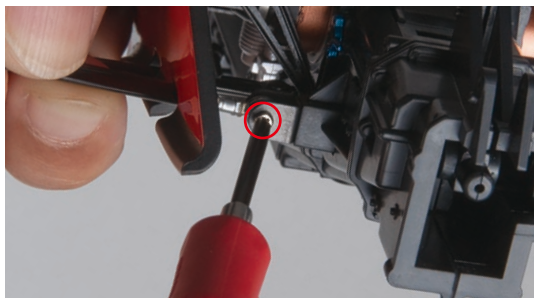


- トーリンク(左)にスミ入れをする場合は、作業をする前に行う(今号のディテールアップを参照)。

- トーリンク(左)の銀色をした先端を、クォーターパネル(左)の溝を通してから、ギアボックス左側面にある赤矢印で示したトーリンクブラケットに合わせる。



- トーリンクブラケットの赤丸で示したビス穴にビスPを差し、プラスドライバー (00番)で締める。



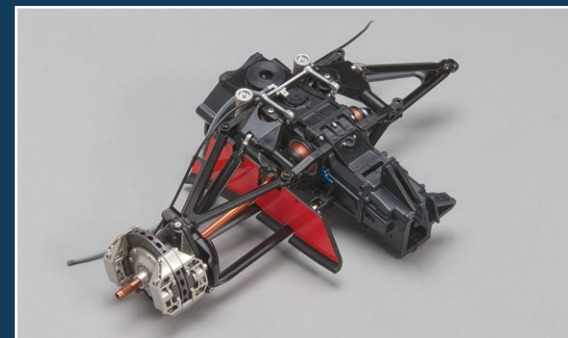
- ビスの頭がブラケットに接したところで締めるのをやめる。
- トーリンク(左)の反対側の赤丸で示した端をリアブレーキの下側、後方の黄色い丸で示した穴に合わせ、ビスMを差し、プラスドライバー (00番)で締める。



- 締め過ぎに注意し、各パーツのすき間がなくなったところで締めるのをやめる。

今号の完成

ギアボックスにギアボックス(下)を装着した後、クォーターパネル(左)、リアサスアーム(左上)、リアブレーキダクト(左)、ドライブシャフト、左のリアブレーキ、トーリンク(左)を取り付けた。



保管パーツ

今号で使用しなかった①エンジンオイルタンク(上)、②エンジンオイルタンク(下)のほか、残りの④ドライブシャフト、⑤ビスC、⑦ビスK、⑧ビスM、⑨ワッシャー Aは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



ディテールアップ

トーリンクのスミ入れ

● トーリンクの銀色の部分全体にスミ入れをすると重厚感が増す。この作業は取り付けする前に行い、十分に乾燥させてから取り付ける。

※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。



Mission 44 ギアボックスを組み立てる⑦

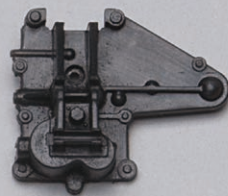
今号はまずギアボックスにオイルクーラーを取り付ける。さらにギアボックス(後)に取り付けたギアボックスオイルラインユニオンEやギアボックスオイルラインユニオンBなどにホースを接続してギアボックスに取り回し、実車のイメージに近づけていく。

今号のパーツ

① オイルクーラー ダイキャスト製



② ギアボックス(後)



③ ジャッキフック(左)

ダイキャスト製



⑤ ジャッキフック(右)

ダイキャスト製



④ ジャッキフック(中)

ダイキャスト製



⑥ ビスJ (1.4×6P-M BK)×2

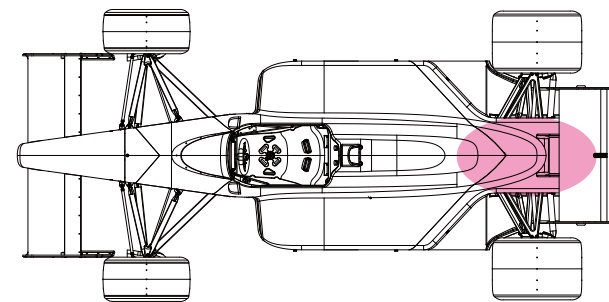
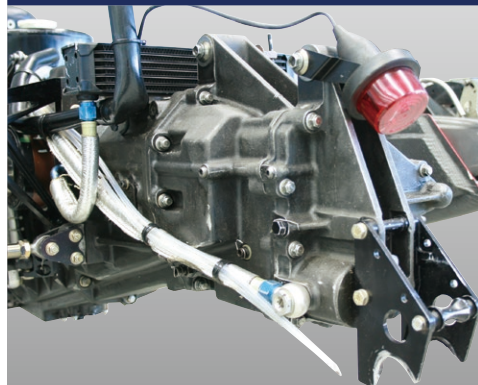


※ビスは予備1本を含む。

※②はPA(ナイロン)製

オイルクーラーは、エンジン内部を潤滑しているオイルを冷却するために設置されている。MP4/4では、そのサイズもレースコースに合わせたセッティングがされていた。本モデルでは、当時の資料を元に、実際に日本GPで使用されたオイルクーラーを再現している。

◀MP4/4のオイルクーラー。



今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ 瞬間接着剤・カッター・カッティングマット
- ・ ピンセット・定規・つまようじ

用意するもの

- ・ ワイヤー A ※32号で使用
- ・ ギアボックスオイルラインユニオンB
※34号で提供のランナーパーツ
- ・ ギアボックスオイルラインユニオンE
※34号で提供のランナーパーツ
- ・ ホースB ※41号で使用
- ・ ギアボックス ※43号で組み立て

ポイント

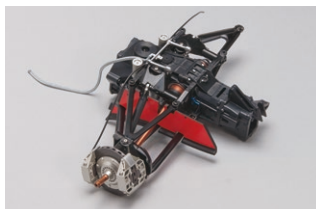
ギアボックス左側のホースBの取り付けに注意

●ギアボックス左側面に取り付ける2本のホースBは、作業の際にやや複雑に取り扱うので、接着前に写真のように正しく取り付けられているか確認する。



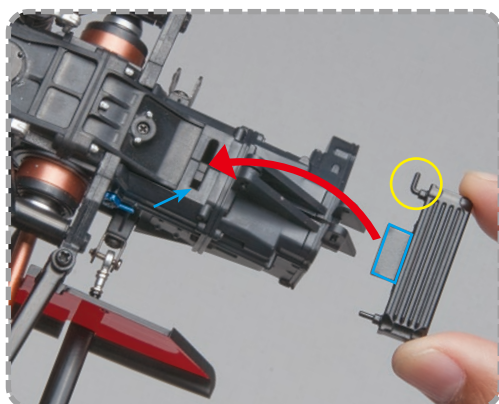
1 ギアボックスにオイルクーラーを装着する

- 43号で組み立てたギアボックスを用意する。



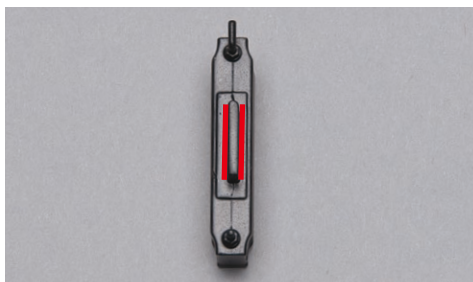
《仮組み》

ギアボックスの青矢印で示した凹みに、①オイルクーラーの青枠で囲んだ突起をはめ込み、それぞれの接着面を確認する。

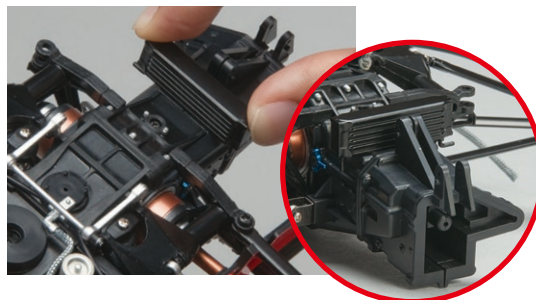


■ オイルクーラーの黄色い丸で示したカギ状の突起が、ギアボックスの右側に来るようにはめ込む。

- オイルクーラーの突起の根元に、赤線で示したように瞬間接着剤をつまようじで少量塗る。



- 仮組みしたように、ギアボックスにオイルクーラーの突起をはめ込み、1分ほど押さえる。



2 ワイヤーAとホースBの準備をする

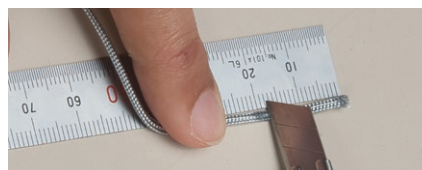
- 32号で使用したワイヤーAと41号で使用したホースBを用意する。



- ワイヤーAを62ミリの長さにカッターでカットする。



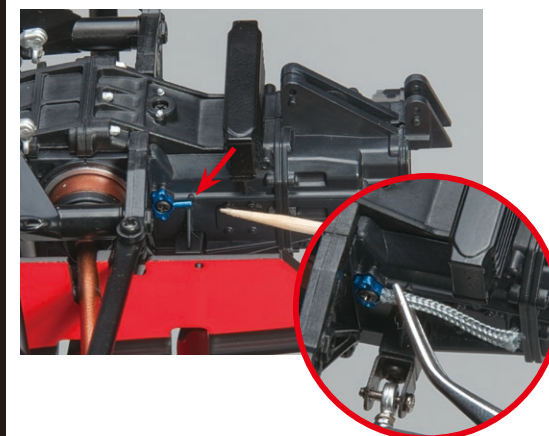
- 40号のステップ3を参照しながら、ホースBの18ミリの部分につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、1分ほどそのままにした後に、18ミリの長さにカッターでカットする。同様に、84ミリの長さのホースBも準備する。



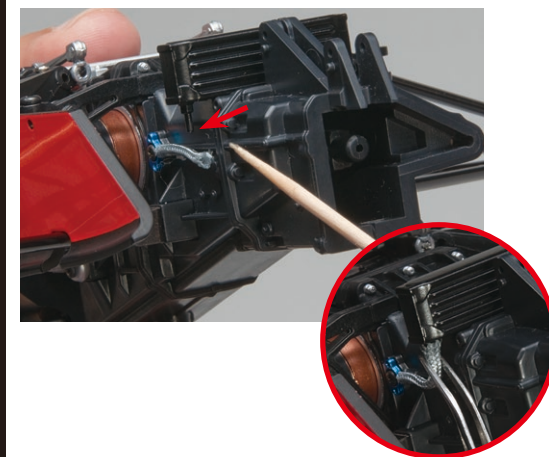
- カットした後は、ホースBの先端につまようじを差して穴を確認する。

3 ギアボックスオイルラインユニオンCとオイルクーラーにホースBを接続する

- 36号でギアボックスの左側面に取り付けたギアボックスオイルラインユニオンCの赤矢印で示した先端に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ステップ2で準備した18ミリのホースBを差し込み、1分ほど押さえる。



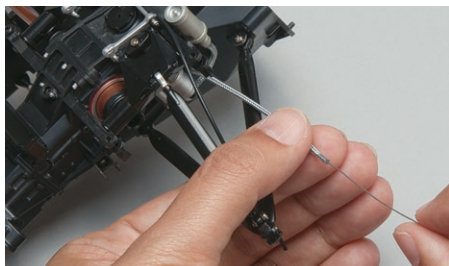
- オイルクーラーの左下にある赤矢印で示した突起につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ギアボックスオイルラインユニオンCに取り付けたホースBの反対側の端を差し込み1分ほど押さえる。



4

ギアボックスオイルラインユニオンDに取り付けたホースBをオイルクーラーに接続する

● 41号でギアボックスの右側面に取り付けたギアボックスオイルラインユニオンDに接続したホースBに、ステップ2で準備した62ミリのワイヤーAを奥までしっかり差し込む。



● 次の作業がしやすいようにホースBの端から6ミリ程度を曲げておく。

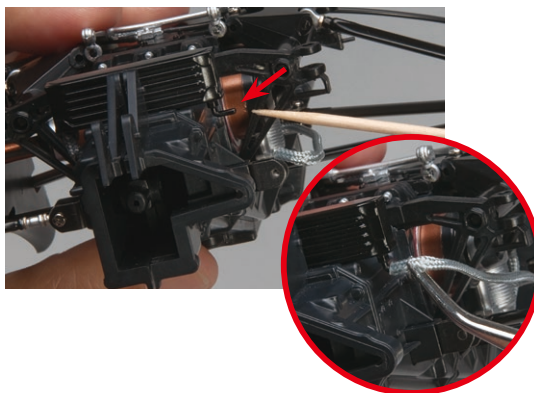


● ホースBをギアボックスの形に合わせて車体後方へ取り回し、オイルクーラーの右下にある黄色い丸で示したカギ状の突起部分へ持って行く。



■ 角の部分はワイヤーAが動いて飛び出ないようにピンセットで押さえながら曲げる。

● オイルクーラーの右下にある赤矢印で示したカギ状の突起の先端部分に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ホースBを差し込み、1分ほど押さえる。



● ギアボックスオイルラインユニオンDとオイルクーラーがホースBで繋がった。

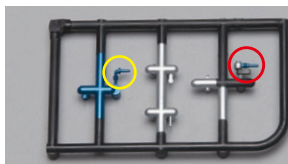


■ ホースBの取り回しが写真のようになっていることを確認する。

5

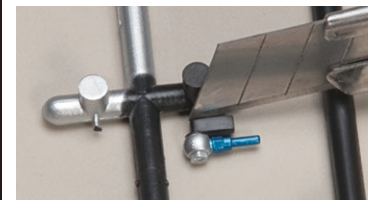
ギアボックス(後)にギアボックスオイルラインユニオンEを取り付け、ホースBを接続した後にギアボックスに装着する

● 34号で提供されたランナーパーツを用意する。



■ 黄色い丸で囲んだ部分がギアボックスオイルラインユニオンB、赤丸で囲んだ部分がギアボックスオイルラインユニオンE。

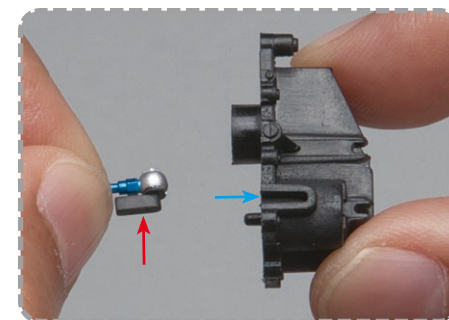
● ランナーパーツを裏返し、ギアボックスオイルラインユニオンEをカッターでカットする。



■ パーツを傷つけないよう注意しながら、パーツのぎりぎりをカットする。

《仮組み》

ギアボックスオイルラインユニオンEの赤矢印で示した黒い部分と、ギアボックス(後)の青矢印で示した溝の部分を接着するので、それぞれ確認する。

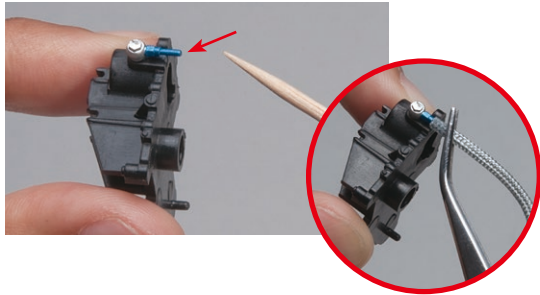


■ 組み合わせた時にギアボックスオイルラインユニオンEの銀色と青色の部分が手前になるようにはめる。

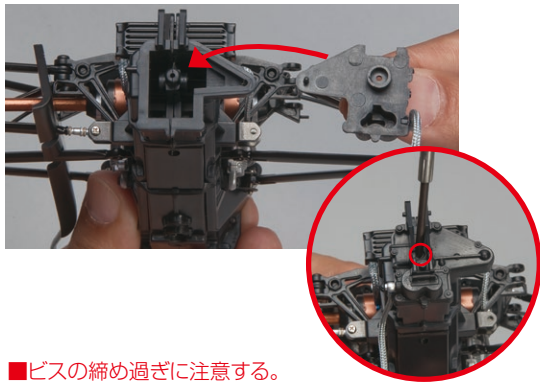
● ギアボックスオイルラインユニオンEの赤枠で示した部分に、つまようじで瞬間接着剤を少量塗り、先ほど確認したギアボックス(後)にはめて、1分ほど押さえる。



● ギアボックスオイルラインユニオンEの赤矢印で示した部分につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ステップ2で用意した84ミリのホースBを差し込み、1分ほど押さえる。



● ギアボックスとギアボックス(後)の形状を合わせて組み合わせ、赤丸で示した部分にビスJを差し、プラスドライバー (00番) で締める。



■ビスの締め過ぎに注意する。

6

ホースBを接続したギアボックスオイルラインユニオンBをギアボックスに取り付ける

● ランナーパーツを裏返し、ギアボックスオイルラインユニオンBをカッターでカットする。



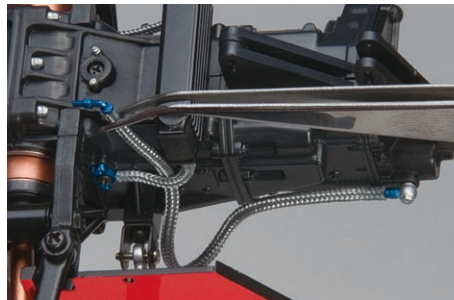
■パーツを傷つけないよう注意しながら、パーツのぎりぎりをカットする。

● ギアボックスオイルラインユニオンBの赤矢印で示した部分につまようじで瞬間接着剤を塗り、ステップ5でギアボックス(後)に取り付けたホースBの反対側の端に差し込み、1分ほど押さえる。

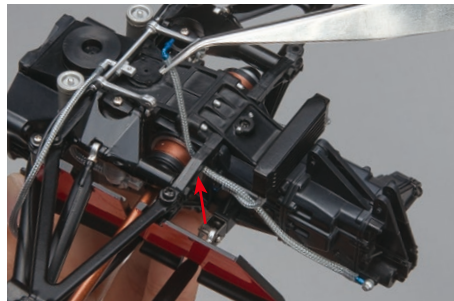


■ギアボックスオイルラインユニオンBの先端が長い方に瞬間接着剤を塗る。

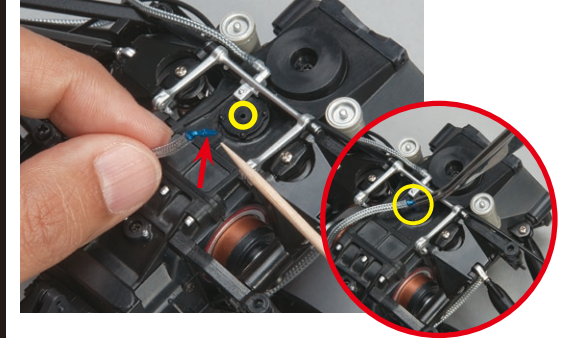
● ホースBを接続したギアボックスオイルラインユニオンBを、ステップ3で取り付けたホースBの下を写真のようにくぐらせる。



● そのまま、写真のようにリアサスペンションプレート(後)の赤矢印で示した部分にくぐらせてから、ギアボックスの上へ引き出す。

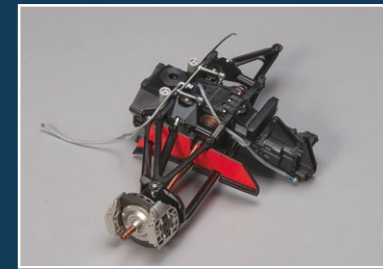


● ギアボックスオイルラインユニオンBの赤矢印で示した先端につまようじで瞬間接着剤を少量塗り、ギアボックス上部の黄色い丸で示した部分に差し込み、1分ほど押さえる。



今号の完成

ギアボックスにオイルクーラーとギアボックス(後)が装着され、ギアボックスオイルラインユニオンB、ギアボックスオイルラインユニオンEなどに、それぞれホースBが接続された。



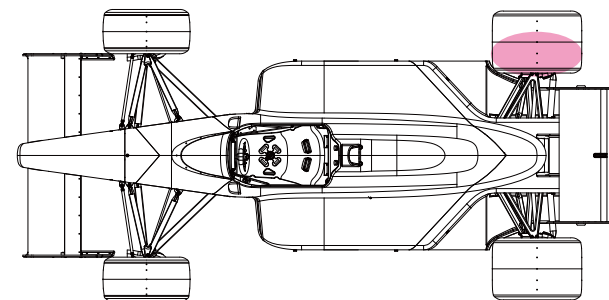
保管パーツ

今号で使用しなかった ③ ジャッキフック(左)、④ ジャッキフック(中)、⑤ ジャッキフック(右)のほか、ワイヤー AとホースBの残りは、後の方で使用するまで大切に保管しておこう。



Mission 45 右のリアブレーキを組み立てる

今号は、まずブレーキディスクとブレーキパッドを取り付けたブレーキキャリパーを組み立てる。それらをリアアップライト(右)に組み合わせて、リアブレーキ(右)を完成させる。これでフロントとリアを合わせて、すべてのブレーキが揃う。さらに、ギアボックスにジャッキフックを取り付ける。



今号のパーツ

① ブレーキディスク(外)



② ブレーキディスク(内)



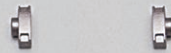
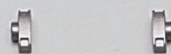
③ ブレーキキャリパー(内)×2



④ ブレーキキャリパー(外)×2



⑤ ブレーキパッド×4



※①～⑤はHIPS(スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・瞬間接着剤・カッター・カッティングマット
- ・定規・ピンセット・つまようじ・マスキングテープ
- ・コピー用紙程度の厚さの紙(1枚)

用意するもの

- ・リアアップライト(右) ※37号で組み立て
- ・ジャッキフック(左)(中)(右) ※44号で提供
- ・ギアボックス ※44号で組み立て

ディテールアップ

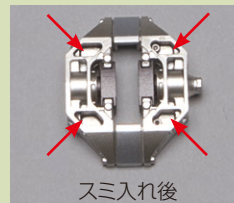
ブレーキディスクのスミ入れ

●ブレーキディスクは、今号のステップ1の作業後に、青丸の内側に並ぶ小さな丸い凹み、それぞれにスミ入れする。



ブレーキキャリパーのスミ入れ

●2つのブレーキキャリパーは、今号のステップ1の作業後に、赤矢印で示した凹みに影を強調する程度に薄くスミ入れをする。



※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

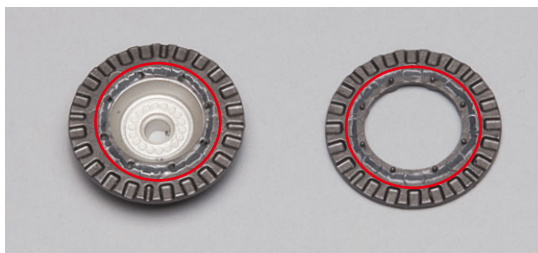
ジャッキフックは、レース中のピットイン作業で、タイヤ交換などを行う際に車体を持ち上げるために使用するジャッキを差し込むためのフックだ。取材を行った車両はジャッキフックの先端部分が折れているが、本モデルでは当時の資料などに基づいてディテールを再現し、素材をダイキャスト製にすることで質感を実車に近づけている。

◀MP4/4のジャッキフック。

In Focus

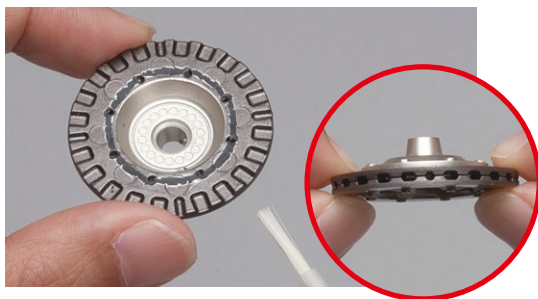
1 ブレーキディスクと ブレーキキャリパーを組み立てる

● 3号の組み立てガイドを参考にしながら、①ブレーキディスク(外)と②ブレーキディスク(内)の8つの突起や穴を結ぶ円周部分(赤丸)の塗装を、カッターの刃の刃の部分ではがす。



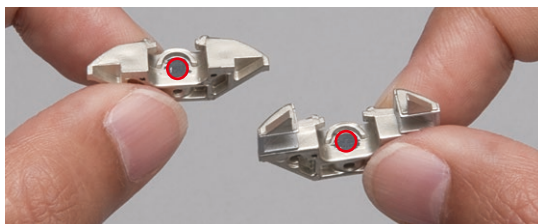
■ 接着面に塗装のかすが残らないようにする。

● ブレーキディスク(外)の8つの穴と塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキディスク(内)と側面の穴の形状を合わせて、2~3分おさえる。



■ 側面の穴の形状が、写真のように整っているか確認する。

● ③ブレーキキャリパー(内)×2と④ブレーキキャリパー(外)×2、それぞれの赤丸部分の塗装をはがす。



● ⑤ブレーキパッド×4の赤丸で示した突起の面と、その反対側の赤枠で囲った部分の塗装をカッターの刃の刃の部分ではがす。

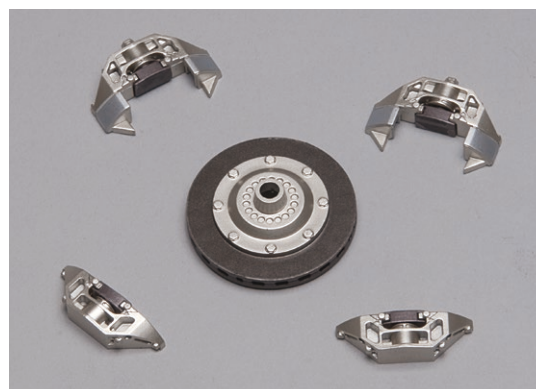


● ブレーキキャリパー(外)(内)のそれぞれ塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキパッドと組み合わせて2~3分おさえる。

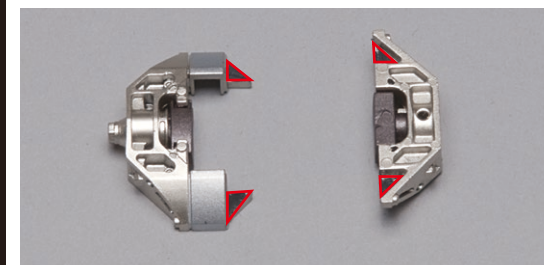


■ ブレーキパッドがずれないように注意しておさえる。

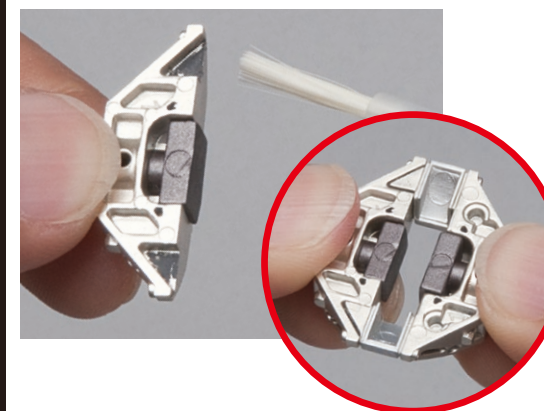
● 完全に接着するまで1時間ほどおく。



● ブレーキキャリパー(内)×2とブレーキキャリパー(外)×2の、赤枠で囲んだ部分の塗装をカッターの刃の刃の部分ではがす。



● ブレーキキャリパー(外)の塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキキャリパー(内)を組み合わせて指で2~3分おさえる。



● 同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパー(外)とブレーキキャリパー(内)を組み立て、完全に接着するまで1時間ほどおく。



2

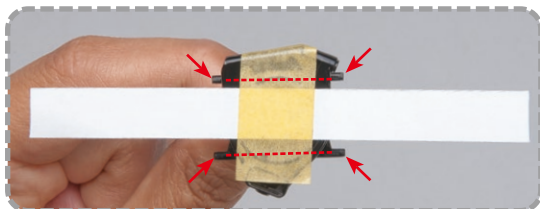
リアアップライト(右)にブレーキディスクとブレーキキャリパーを接着する

● 37号で組み立てたリアアップライト(右)と、1×10センチに切った紙と、4センチと6センチ程度のマスキングテープを1本ずつを用意する。

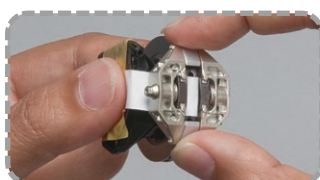
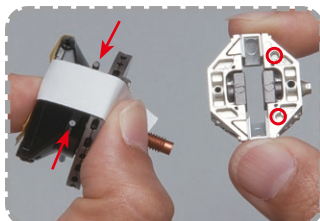


《仮組み》

リアアップライト(右)の赤矢印で示した突起を結ぶ赤点線の内側中央に、用意した紙を4センチのマスキングテープで写真のように固定する。



ブレーキディスクをアクスルシャフトに差し込む。次にブレーキキャリパーで紙を軽く押し曲げながらブレーキディスクをはさみ込む。この時、赤矢印で示したリアアップライト(右)の突起にブレーキキャリパーの赤丸で示した穴を合わせる。



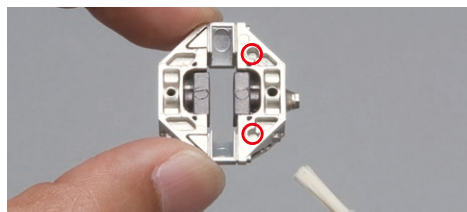
■ 紙をはさむことで、ブレーキディスクとブレーキキャリパーの間に適度なすき間ができる。

《仮組み》

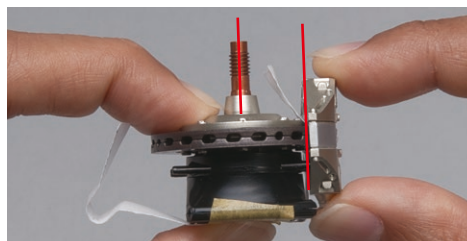
同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもリアアップライト(右)に仮組みする。その後、ブレーキキャリパーを外すと、紙がブレーキディスクに沿うような形で癖がつく。



● ブレーキキャリパーの赤丸で示した穴の中にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。

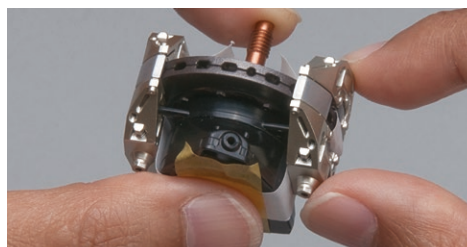


● 仮組みしたように、ブレーキキャリパーをリアアップライト(右)に組み合わせ、指で2~3分おさえる。



■ ブレーキキャリパーが赤線で示したようにリアアクスルと平行になるように固定する。

● 同様に、もう1つのブレーキキャリパーもリアアップライト(右)に接着する。



● 用意した6センチのマスキングテープで、2つのブレーキキャリパーとリアアップライト(右)を写真のように固定し、完全に接着するまで1時間ほどおく。

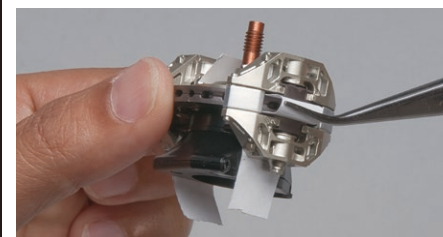


● 完全に接着したら、紙が動かないようにしながらマスキングテープをはがし、カッターで紙の中心部分を切り離す。



■ パーツに傷をつけないよう注意する。

● 切り離された紙を、写真のようにピンセットでそれぞれ抜き取る。



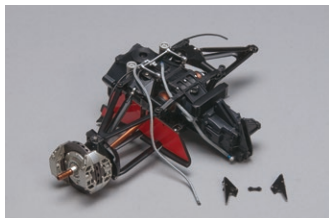
● リアアップライト(右)にブレーキキャリパーが取り付けられ、リアブレーキ(右)ができた。



3

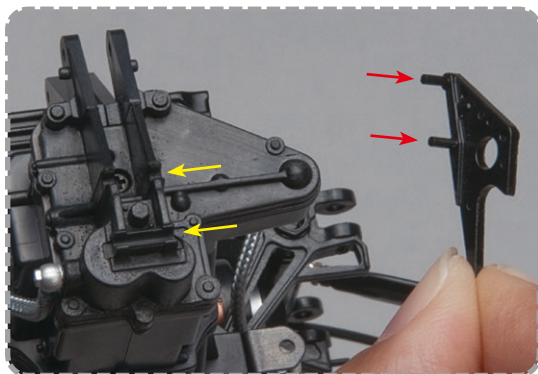
ギアボックスにジャッキフックを取り付ける

● 44号で組み立てたギアボックスと44号で提供されたジャッキフック(左)(中)(右)を用意する。

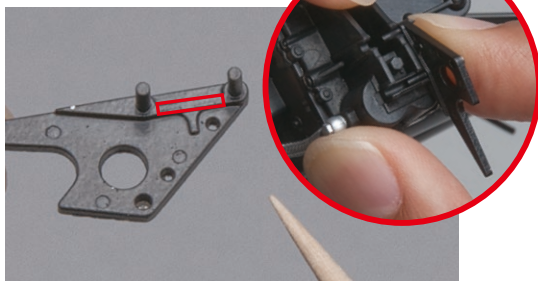


《仮組み》

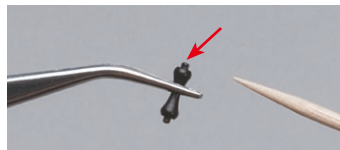
ギアボックス後方部分の黄色い矢印で示した溝と、ジャッキフック(右)の赤矢印で示した突起を組み合わせるので確認する。



● ジャッキフック(右)の赤枠で示した部分につまようじで瞬間接着剤を塗り、仮組みしたようにギアボックスに組み合わせ、1分ほどおさえる。



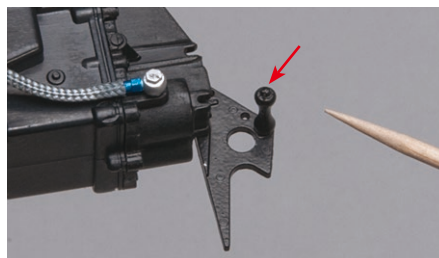
● ジャッキフック(中)の赤矢印で示した突起に瞬間接着剤を塗る。



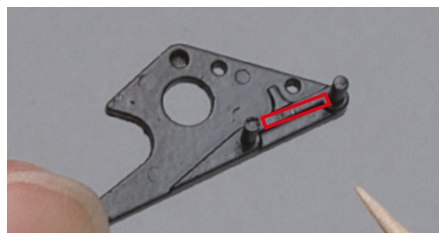
● ジャッキフック(右)の赤丸で示した凹みにジャッキフック(中)を組み合わせ、1分ほど押さえる。



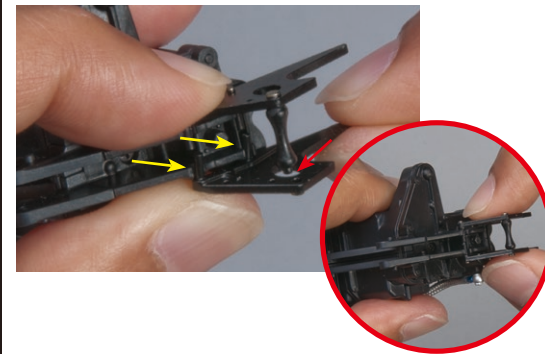
● ジャッキフック(中)の赤矢印で示した突起の先端に瞬間接着剤を塗る。



● ジャッキフック(左)の赤枠で示した部分につまようじで瞬間接着剤を塗る。



● ギアボックスに黄色い矢印で示したジャッキフック(左)の2つの突起を組み合わせてから、赤矢印で示したジャッキフック(中)の突起とジャッキフック(左)を組み合わせ、1分ほど押さえる。



● ギアボックスにジャッキフック(右)(中)(左)が取り付けられた。



今号の完成

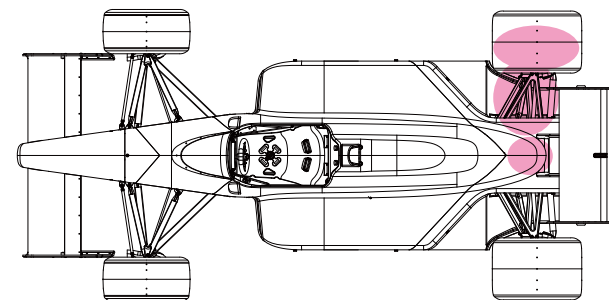
リアアップライト(右)にプレーディスクが取り付けられ、リアブレーキ(右)が完成した。ギアボックスにはジャッキフックが取り付けられた。

■ ジャッキフックが外れるおそれがあるので、保管の際には、マスキングテープの上にギアボックスを乗せるなどして、ジャッキフックが下につかないようにする。



Mission 46 ギアボックスを組み立てる⑧

今号は、まずリアタイヤにリアホイールを組み合わせる。これですべてのタイヤが揃う。次にエンジンオイルタンクを組み立てた後、ギアボックスにクォーターパネル(右)とリアサスアーム(右上)、リアブレーキダクト(右)、ドライブシャフト、リアブレーキ(右)、トーリンク(右)を取り付ける。



今号のパーツ

① リアタイヤ



② リアホイール ダイキャスト製



今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー(00番) ※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ プラスドライバー(0番) ※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ 瞬間接着剤・カッター・つまようじ

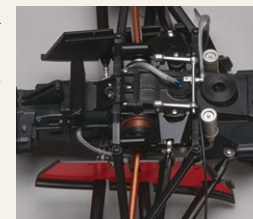
用意するもの

- ・ ギアボックスオイルラインユニオンA ※34号で提供
- ・ リアブレーキダクト(右) ※37号で提供
- ・ トーリンク(右)・クォーターパネル(右)・リアサスアーム(右上) ※42号で提供
- ・ ドライブシャフト・エンジンオイルタンク(上)(下) ※43号で提供
- ・ リアブレーキ(右)・ギアボックス ※45号で組み立て
- ・ ビスC (1.4×6F-M SiL)×1 ※43号で提供
- ・ ビスG (2.0×6P-TP BK)×2 ※42号で提供
- ・ ビスK (1.4×10P-M SiL)×1 ※43号で提供
- ・ ビスM (1.4×4P-M SiL)×1 ※43号で提供
- ・ ビスP (1.4×6P-M SiL)×1 ※42号で提供
- ・ ワッシャーA (1.5×3.0×0.3 BK)×1 ※43号で提供

ポイント

ギアボックスの保管について

- ギアボックスに取り付けられた左右のクォーターパネルは、今号の完成時点ではサスアームに挟まれている状態で、固定されていない。保管の際には無理な力が加わらないよう注意する。



ギアボックスの上部に取り付けられるエンジンオイルタンクは、オイルの注入口にもなっており、エンジンやギアボックスの内部を潤滑するオイルが入っている。
本モデルのエンジンオイルタンク上面の線(溶接跡)は、取材車両にはない。その理由は不明だが、さまざまな取材資料から日本GPでセナが乗った車両にはあったことが判明し再現している。

◀MP4/4のエンジンオイルタンク。

In Focus

1 リアタイヤに リアホイールを取り付ける

- 14号の組み立てガイドを参照しながら、②リアホイールの赤丸で示した小さな凹みを①リアタイヤの「EAGLE」ロゴのGの中心に合わせてはめ込む。



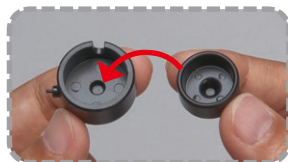
2 エンジンオイルタンクを組み立てる

- 43号で提供されたエンジンオイルタンク(上)、エンジンオイルタンク(下)と34号で提供されたギアボックスオイルラインユニオンAを用意する。

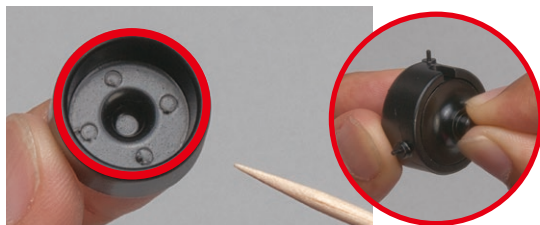


《仮組み》

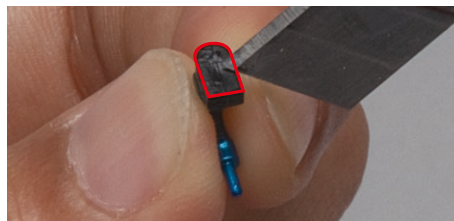
エンジンオイルタンク(上)、エンジンオイルタンク(下)の接着面を確認する。



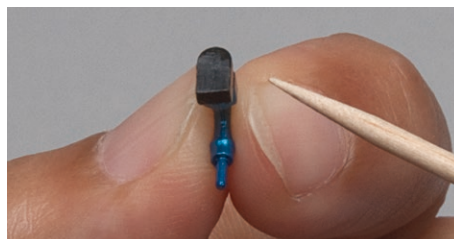
- エンジンオイルタンク(下)の赤丸で示した縁の部分につまようじて瞬間接着剤を少量塗り、仮組みで確認したようにエンジンオイルタンク(上)とエンジンオイルタンク(下)を組み合わせ、1分ほど押さえる。



- ギアボックスオイルラインユニオンAの赤枠の中全体をカッターの刃の裏側で平らにけずる。



- ギアボックスラインユニオンAのけずった部分につまようじて瞬間接着剤を少量塗る。



- エンジンオイルタンク(上)の黄色い矢印で示した切り欠き部分に、ギアボックスオイルラインユニオンAを組み合わせ、1分ほど押さえる。

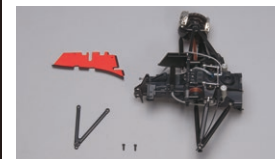


- エンジンオイルタンク(上)(下)にギアボックスオイルラインユニオンAが装着され、エンジンオイルタンクが完成した。



3 ギアボックスに クォーターパネル(右)と リアサスアーム(右上)を取り付ける

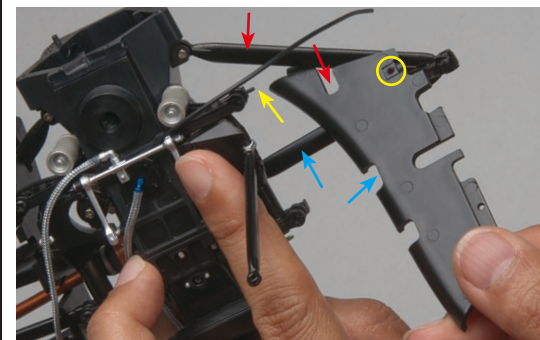
- 45号で組み立てたギアボックス、42号で提供されたクォーターパネル(右)とリアサスアーム(右上)、ビスG×2を用意する。



- ギアボックス右側にあるリアサスアーム(下)の、プッシュロッドの先端を固定している赤矢印で示したビスMをプラスドライバー(00番)で外す。

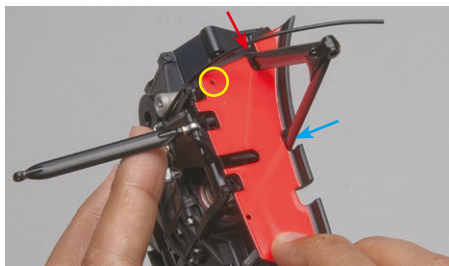


- プッシュロッドを上にあげて、クォーターパネル(右)の赤矢印で示した凹み、青矢印で示した凹み、黄色い丸で示した穴と、ギアボックス右側の赤矢印と青矢印で示した部分、黄色い矢印で示した突起、それぞれ同じ色で示した部分を組み合わせるのを確認する。



- リアサスペンションプレート(前)の黄色い矢印で示した突起は、破損しやすいので注意する。

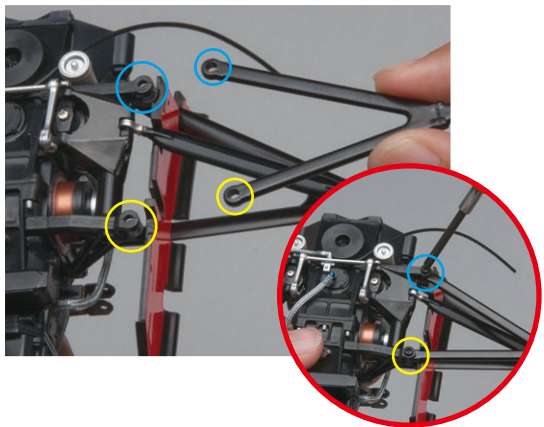
- 赤矢印で示した部分からはめ、次に青矢印で示した部分、最後に黄色の部分をはめる。



- 先ほど上のあげたプッシュロッドをリアサスアーム(下)に戻し、ビスMを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



- リアサスアーム(右上)の青丸と黄色い丸で示したビス穴を、リアサスペンションプレート(前)(後)の同色の丸で示したビス穴に合わせ、それぞれビスGを差し、プラスドライバー(0番)で締める。



- ギアボックスにクォーターパネル(右)とリアサスアーム(右上)が取り付けられた。



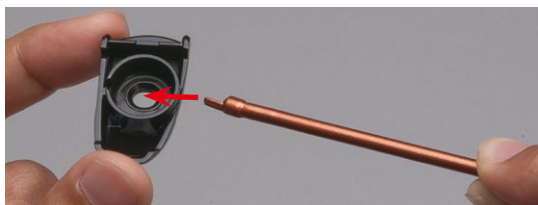
4

ギアボックスにリアブレーキダクト(右)とドライブシャフト、リアブレーキ(右)、トーリンク(右)を取り付ける

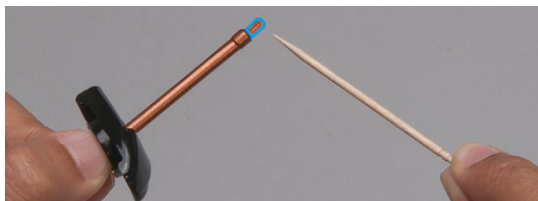
- 37号で提供されたリアブレーキダクト(右)、42号で提供されたトーリンク(右)とビスP×1、43号で提供されたドライブシャフトとビスC×1、ビスK×1、ビスM×1、ワッシャーA×1、45号で組み立てたリアブレーキ(右)を用意する。



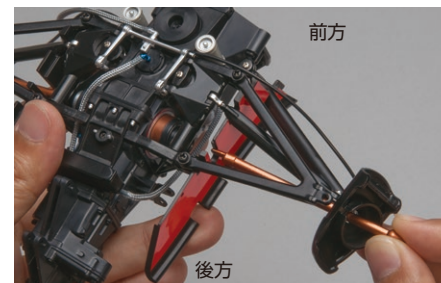
- リアブレーキダクト(右)の穴に、写真のような向きでドライブシャフトを差し込む。



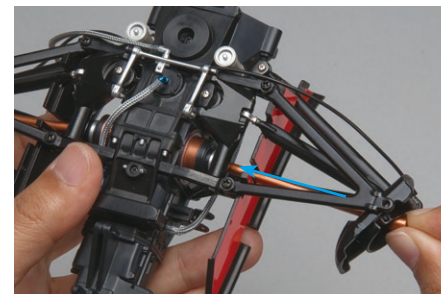
- 青棒で示したドライブシャフトの先端の全体に、つまようじの先で瞬間接着剤を塗る。



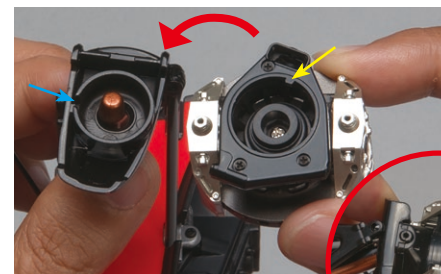
- 写真のようにドライブシャフトの平らな面を車体後方に向け、リアブレーキダクト(右)の開いた側を車体前方にして持つ。



- 43号の組み立てガイド、ステップ3のポイントを参考にしながら、ギアボックスの右側面にあるCVジョイントの穴にドライブシャフトを奥まで差し込み、1分ほど押さえる。

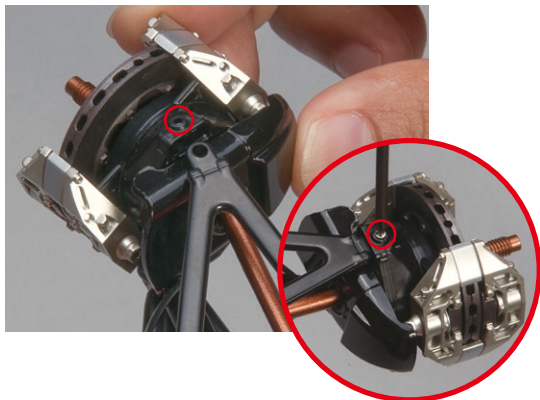


- リアブレーキダクト(右)の青矢印で示した切り欠きが車体の上側に来るようにして持ち、リアブレーキ(右)の黄色矢印で示した突起を組み合わせる。

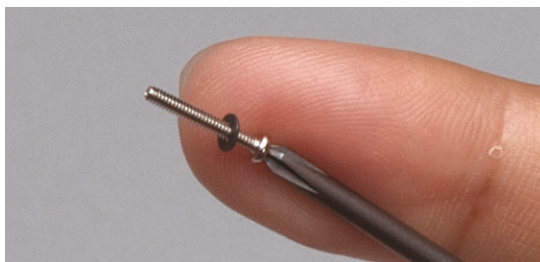


- リアブレーキ(右)をリアブレーキダクト(右)に近づけてはめ込む。

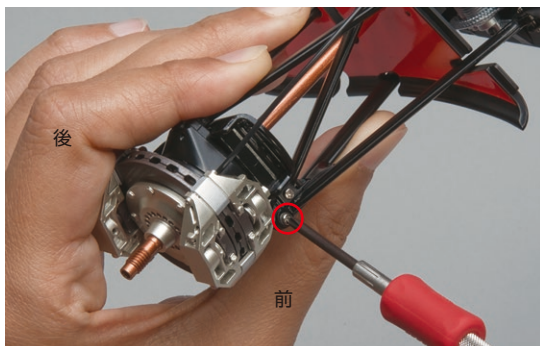
● リアサスアーム(右上)の先をリアブレーキ(右)の赤丸で示したビス穴の下にある凹みに差し込み、それぞれのビス穴を重ねてビスCを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



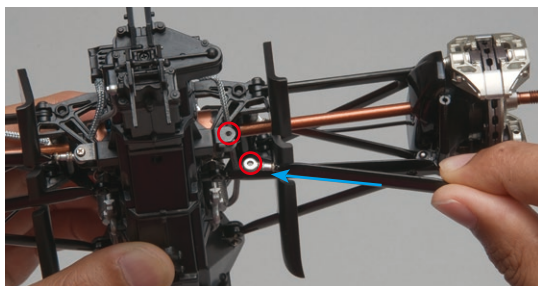
● ビスKにワッシャーAを通す。



● リアサスアーム(下)の先端にある赤丸で示したビス穴に、リアブレーキ(右)の下側前方にあるビス穴を合わせ、ワッシャーAを通したビスKを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



● トーリンク(右)の銀色をした先端を、クォーターパネル(右)の溝を通してから、ギアボックス右側面にある赤矢印で示したトーリンクブラケットに合わせる。

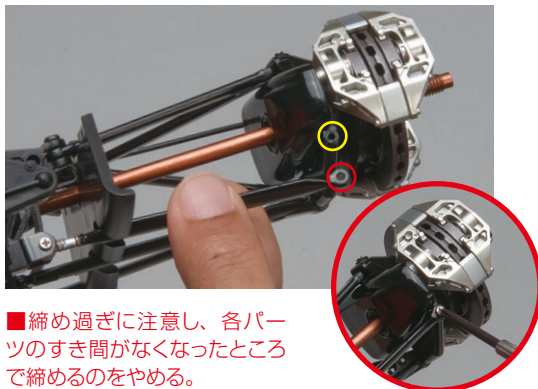


● トーリンクブラケットの赤丸で示したビス穴にビスPを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



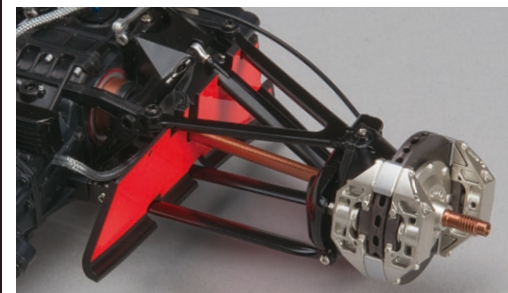
■ ビスの頭がブラケットに接したところで締めるのをやめる。

● トーリンク(右)の反対側の赤丸で示した端をリアブレーキの下側、後方の黄色い丸で示した穴に合わせ、ビスMを差し、プラスドライバー(00番)で締める。

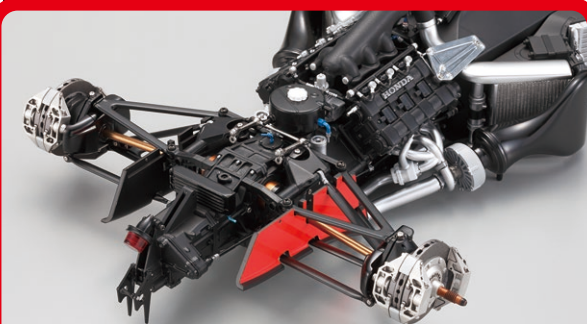


■ 締め過ぎに注意し、各パーツのすき間がなくなったところで締めるのをやめる。

● ギアボックスにリアブレーキダクト(右)とドライブシャフト、リアブレーキ(右)、トーリンク(右)を取り付けた。



Check



完成時イメージ▲

■ 後の号でギアボックスにエンジンオイルタンクが取り付けられる。

今号の完成

リアタイヤとエンジンオイルタンクが完成し、ギアボックスにクォーターパネル(右)、リアサスアーム(右上)、リアブレーキダクト(右)、ドライブシャフト、リアブレーキ(右)、トーリンク(右)が取り付けられた。

